



金属プレスの高付加価値化による 受注拡大

有限会社 トーヨー

最新型プレス機とノウハウの相乗効果で、高単価化や新規受注の獲得に成功

有限会社トーヨーでは重機やバス車両、OA機器など、さまざまな部品の金属プレス加工を行っている。近年増えている高精度加工や加工対応範囲の拡大に関する顧客の要望に対応するため、助成金を活用して最新のプレス機を導入。プレス加工のノウハウとの相乗効果により、そうしたニーズに応えるとともに、新規受注獲得や高単価化に成功、売上高の増加を果たしている。

●助成金で大型プレス機を導入し、チャンスが一気に拡大

東京都大田区にある有限会社トーヨーではさまざまな部品の金属プレス加工を行っている。特に重機やバス、コピー機やサーバーなどOA機器関連の部品が主力だ。

同社が第1回革新的事業展開設備投資支援事業に採択され、最新型のプレス機を導入したのは2017年12月。当時から2年が経過し、導入効果で拡大した受注に対応するために従業員を1人増やし、現在は佐川社長以下、6人で切り盛りしている。

「当社は初めて助成金を申請しましたが、思い切って決断して本当に良かったです。高性能の大型プレス機を導入でき、従来よりも付加価値の高い加工ができるようになりました。その結果、製品単価が上がり、受注も増え、作業効率も上がりました」（佐川社長）

設備投資の助成金については、「われわれ町工場にとって本当にありがたい制度。設備導入費用の2/3まで助成されます（小規模企業者で申請した場合）。迷っているなら是非チャレンジしてほしい」（佐川社長）と語る。

さらに、「われわれの仕事は、技術はもちろん大事ですが、『機械ありき』という部分があります。当社の場合も、『トーヨーさんで大型機械を入れた』という話を耳にして発注してくれた新規のお客さんたちがいます」（佐川社長）

●時代のニーズに応え、時代の先を行くために

同社が導入したのは、プレス機TP110FX（アマダ製）。同社の従来のプレス加工設備でかけられる圧力15～80tに比べ、新型プレス機では110tまで負荷をかけられる。従来より厚い金属板を加工できる上、最新のデジタル加工を施すことで付加価値の高い部品製造が可能になった。

付加価値が高い部品とは、年々、高まるメーカーからの「複合化」と「高精度化」のニーズに応える部品となる。具体的には、従来、複数に分かれていた部品を1つにまとめることを「複合化」という。「複合化」によってメーカーは製造に必要な部品数を減らすことができ、工程数やコストも削減できる。

一方で、複数の部品を1つにするため、部品の形状も、曲げ加工の角度なども複雑化する。その分、同社のような加工業者にとっても工程や時間が従来よりかかることに



「複合化」に応える製品。複雑化された部品も1工程で製造可能



設備情報

新型プレス機TP110FX(アマダ製):シングルクランクプレス。抜き、曲げ、絞りなどの単発加工から順送などの自動化まで、高い汎用性で使用が可能。ISO13849、構造規格にも準拠。

なるが、そのようなデメリットも新型プレス機導入のメリットが上回るという。たとえば、通常、ベンダー設備を使って2工程を必要とし、400個製造するのに1日かかる部品の場合、同社の新型プレス機を使えば1工程・2時間で済む。それほど生産性の面で効果があり、その分、納期も短縮できるという。

付加価値の高い部品は高単価になる。結果的に、自社にとって取引先にとっても、よいことづくめの結果が生まれている。

「『高精度化』というのは、仕上がりに0.3mmのレンジ(誤差の幅)が許されていたものが0.1mm以内になるように、品質要求が厳しくなることです。複合化も高精度化も、業界によらず今後も続く傾向だと思います。当社のこれからを考えると、このタイミングでの設備投資は必要なものであり、助成金を活用できたことは非常に助かりました。実際、新型プレス機を導入して10～15%は売上が増えましたし、今も新しい仕事のご相談を複数いただいています」(佐川社長)

●ピンチを乗り越え、さらなる成長を目指す

設備導入後、順調に発展してきたトーヨーだが、実は助成金の交付が決まった後、思いがけない出来事もあった。

助成金で導入を予定していた新型プレス機は、そもそも、ある顧客から受注した大型案件に応

えるための設備であった。設備導入費用の支払いも、その売上を充てるつもりで計画していたところ、顧客の都合で突然、その案件が取り消されてしまったという。

「頭が真っ白になりました。どう支払えばよいのかと……。でも、もともと常に十数社と取引し、1社依存にはならないようにしていたおかげで何とかなりました」(佐川社長)

年間売上が見込める大型案件ではあったが、そこにだけ集中せず、従来の仕事も大事にし、新たに人と設備を増やすことで対応する方針を立てていたことが幸いしたという。

さらに、同社の設備導入を聞いた顧客が新型プレス機の機能を見込んで新たに発注してくれるケースもあった。加えて、新型プレス機は既存設備でも対応可能な部品を含め、多様な部品加工にも対応できる非常に汎用性の高い特徴を備えている。従来の仕事でも、新規の仕事でも活躍し、結果的に売上は伸びていった。

「新型プレス機は当社製品の信頼性向上に貢献しており、大きな存在です。今後はさらに設備を活用して、従来の仕事をしっかりこなしつつ、新たな業界の顧客も増やしていきたい。また若い従業員も増やし、育成していきたいと思います」(佐川社長)



プレスでの抜き加工。従来機と比べ加工の精度とスピードが大幅に向上した(写真上)。当社が製造したブラケットや継手、加工公差±0.1mmの精度まで実現可能(写真右)



有限会社 トーヨー

(左から)
工場長
佐川 冬馬 氏
代表取締役
佐川 一彦 氏

所在地 〒144-0033 東京都大田区東糀谷5-4-8
代表取締役社長 佐川一彦
設立 1982年8月
資本金 500万円
事業内容 金属プレス加工(重機のブラケットや継手、バス車両のプレス部品、OA機器のプレス部品など)

是非知って
もらいたい!

助成金申請のポイントはココだ!!

成功につながったポイントは大きく分けて2つあると思います。1つは書類上も面接時もポイントを絞ってプレゼンしたこと。当社の場合、特に「複合化」「高精度化」といった時代の流れをキーワードにしました。それに今後応えていくために必要な設備であり計画であるということです。もう1つは、他社を退職して入社してくれた息子と二人三脚で進められたことです。私は現場の人間ですから、正直、書類仕事は得手ではありません。社長といっても仕入から配送まで何でもやっているのが実情で、申請の準備にかけられる時間もありません。一方、息子は会社員生活で書類作成に慣れていますし、いつでも意見交換できる。彼が作成を担当し、一緒に練り上げていけたからこそうまくいきました。



代表取締役
佐川一彦氏